

第五十二回句会 俳句

【高点句】

☆凡庸に生きて八十路の初茜

〈眞澄〉

☆初景色潮目の著しるき備讃瀬戸

〈明美〉

☆さり気なく紅引く母の三日かな

〈莫院〉

【各自一句】

・兄弟のこまは手作り絵双六

〈郁代〉

・初詣賽銭箱と募金箱

〈撫子〉

・初打ちや力まず弛まず真つ直ぐに

〈雄記〉

・せりなづな御形はこべら母の声

〈千恵〉

・年新た青空へ深呼吸する

〈安津子〉

・直島や初日と海と赤かぼちゃ

〈青蛙〉

・花舗の棚いまひとときの飾売

〈一馬〉

・シートベルト締め初晴へ離陸する

〈明美〉

・平成に馴染めぬままに年迎ふ

〈莫院〉

・中身より袋気に入るお年玉

〈伸子〉

・愛想なき息子の返事雑煮餅

〈隆司〉

・老松に覚悟問はれて初手水

〈一衣〉

・初詣百円分の願い事

〈童心〉

・アンテナショップ馴染みの顔に会ふ師走

〈眞澄〉

・水櫛で髪落着かせ初詣

〈静〉

・初詣そつとお守り渡されし

〈緑〉

*以上、43句（3句ずつ14名と1句1名）より、選句は17名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（今回は第1位が同点で3句）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）＋今回は掲載句として1句追加